

**平成 17 年 1 月冬期風浪災害
海岸災害関連事業
和木波子地先海岸**

平成 21 年 5 月 26 日撮影



和木波子地先海岸の概要

和木波子海岸は島根県のほぼ中央、江津沿岸の西部に位置し、江津市和木町から敬川町に至る砂浜海岸で、日本海に面したほぼ直線状の海岸となっている。その西端は、県立石見海浜公園の一部である大崎鼻、東端は北緯35°線直下に位置する真島となっており、海岸保全区域の指定延長はL=4,750mとなっている。

また、和木町から敬川町までの海岸線は、万葉の歌人柿本人麻呂に縁のある「角の浦」と呼ばれ、地域住民に親しまれてきた海岸である。



和木波子地先海岸 海岸保全区域指定位置図

当海岸は、昭和40年代後半から冬期風浪による海岸侵食が顕著となり、昭和50年度から海岸保全施設の整備を行い、平成2年度からは面的な防御を主目的とした人工リーフの整備に着手し、平成13年度の暫定完成を最後に侵食対策の概成としていた。

被災時の状況

平成17年1月31日から2月1日未明にかけての冬期風浪は、近傍の浜田測候所において最大10分間平均風速で15.0m/sec、最大瞬間風速で30.2m/secを観測し、三隅発電所の波高計では最大有義波高5.7mを観測するなど、大荒れの天候となった。

この風浪により、和木波子海岸では既設の緩傾斜護岸に隣接する天然海岸が、600mにわたって被災し、海岸保全区域背後の砂丘が消失し、海岸保全区域背後の保安林・事業所が流失の危険にさらされる状況となった。



被災区間の浜崖の状況



改良復旧の概要

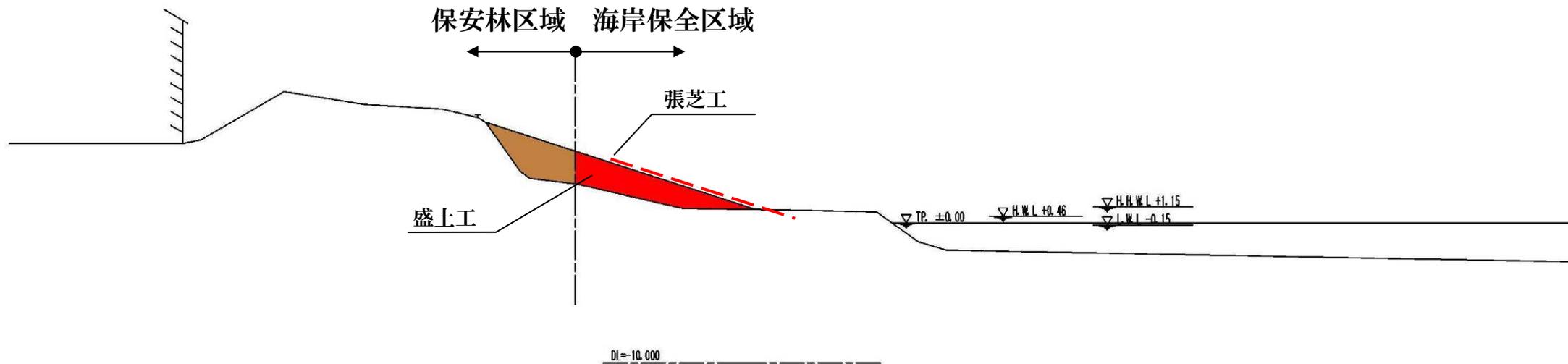
和木波子海岸における災害復旧計画を策定するにあたり、緩傾斜護岸による災害提案に沿った復旧も考えられたが、当海岸は万葉の歌人「柿本人麻呂」にゆかりの地であり、地域住民に親しまれていた海岸であること、一連の海岸が侵食傾向にあることから、再度被災の防止、豊かな海岸環境の保全を目的として、改良復旧により復旧することとした。

「砂浜の復元を目指す」・・・人工リーフを設置することにより、砂浜の安定化
 「旧来の砂丘を復旧する」・・・被災前の砂丘位置に盛土を行う。

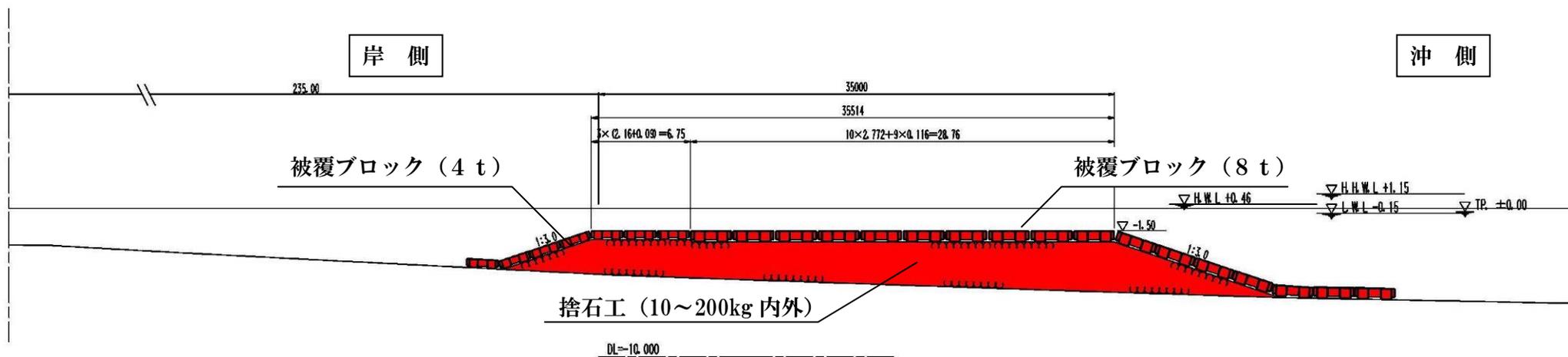
計 画 概 要 表

施行位置	島根県江津市都野津町		
海岸名	和木波子地先海岸（海岸名：江津海岸 地区海岸名：敬川海岸）		
事業費		経済効果	
総事業費	1,572,802 千円	人 家	13 戸
災害費 (外仮工事)	1,017,496 千円 (25,183 千円)	事業所	14 事業所
		宅地面積	81 ha
関連費	555,306 千円	道 路	市道 600 m
施工延長	600 m	鉄 道	山陰本線 600 m
復旧計画概要		被災時の気象及び海象	
設計潮位	T.P.+1.15m	最大10分間平均風速	15.0m/sec（浜田測候所）
設計偏差	65cm	最大瞬間風速	30.2m/sec（浜田測候所）
設計波高	Ho'=5.4m	最大有義波高	5.67m（中国電力榊三隅発電所）
同周期	T=8.3sec	最大波高	9.97m（中国電力榊三隅発電所）
施設の種類	人工リーフ	周 期	8.3sec
天端高	T.P.-1.50m	被災時潮位	T.P.+0.47m
天端幅	W=35.0m	被災時最大潮位	T.P.+0.47m

・陸上部標準断面



・人工リーフ部標準断面



和木波子海岸 海岸災害関連事業 実施平面図

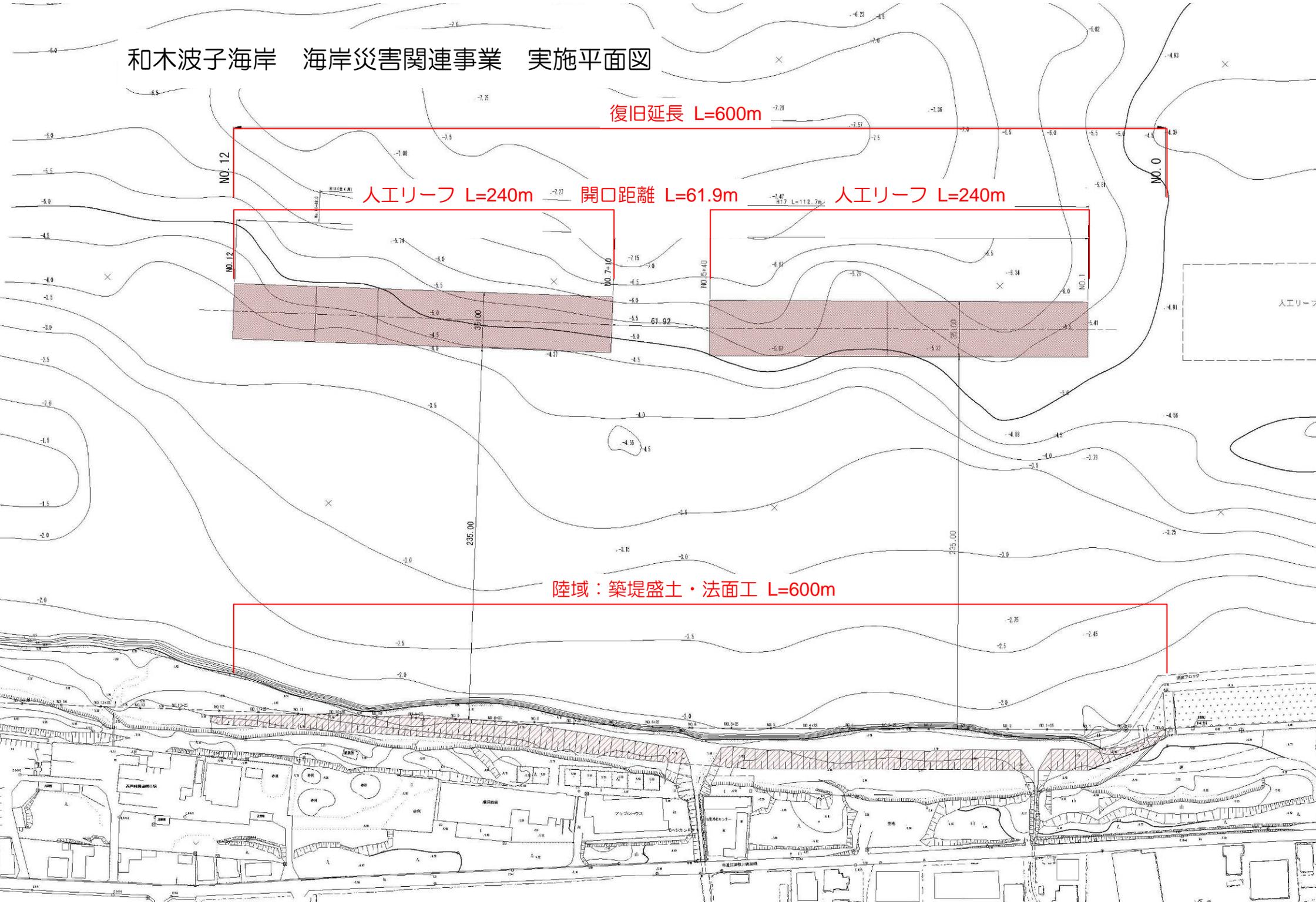
復旧延長 L=600m

人工リーフ L=240m

開口距離 L=61.9m

人工リーフ L=240m

陸域：築堤盛土・法面工 L=600m



平成18年5月撮影

平成21年5月撮影

人工リーフ L=240m 人工リーフ L=240m

築堤盛土、法面工 L=600m

背後地は海岸防災林事業（保安林）で施工

